

未来の天下人と言われた「小早川秀秋」の心の奥は.....

関ヶ原の戦いで西軍にいながら、小早川秀秋は東軍に寝返りを決断した心の深層とは....
戦では勝利する側につくのが基本、ここなら間違いないと言う一番良いタイミングで、天下分け目の寝返りを決断したにすぎないのだが、...

未来の天下人と言われた

- *1582 本能寺の変、この年に秀秋は長浜に生まれる。父は「おね」の兄である。
- *秀吉とおねは子供がなく、秀秋はこの二人の養子となる。
- *秀吉は秀秋に教養人をつけて教育する → とても聡明な子供であった
- *7歳の時には天皇の行幸に際し、秀吉の代理人を務める
- *1589 8歳で丹波の城主に、11歳で中納言に → 秀吉は秀秋を自分の跡継ぎと考えた

1593 豊臣秀頼誕生

- *秀吉待望の実子誕生で、秀秋の苦悩が始まる
- *筑前筑後の小早川家に養子に出すと告げられる
- *1595 14歳の時に大事件が
兄の豊臣秀次に謀反の疑い → 切腹 → 秀頼安泰のために子供も皆殺しに → この事件に連座して秀秋は丹波 10 万石を召し上げとなる

1597 朝鮮出兵

- *16歳の時 14 万の総大将として朝鮮出兵を命じられる → 起死回生のチャンスと「ちがひ鎌」の紋が入った赤い陣羽織を作る
- *一働きできるともくろんだものの、壮絶な死闘が待ち構えていた → 生まれて初めての戦場 → 極寒の地 → 秤量不足 → 石田光成に秤量を送るよう依頼 → 光成は拒否する → 加藤清正の軍 1 万は敵 7 万に包囲され絶体絶命のピンチ → 秀秋は総大将自ら敵に突撃し、清正軍を守る → 17 歳帰国 → 激しい叱責を受ける・総大将失格 → 越前北の庄 15 万石に左遷 → 家康の働きかけで筑前筑後に戻される
-----石田光成に秤量を送るよう依頼したのに、拒否されたことが関ヶ原で寝返る導火線になったと考えられている-----

1600 関ヶ原の戦い

- *家康サイドの加藤清正・福島 VS 光成が敵対する。光成は 13 万の家康の罪をあげて.....
- *家康には黒田・加藤・福島、光成には毛利・島津・宇喜多に小早川。小早川家は毛利家を支える家柄であった。しかるに、西軍につくのは自然なことだった。
- *戦いは西軍が鶴翼の陣、東軍は福島・黒田軍が前に後ろに家康本隊が....ともに 8 万人程が向かい合った。
- *光成は小早川に鶴翼の真ん中に陣を進めるように指示するも、秀秋は命令に背き 13,000 の精鋭部隊を

松尾山へ移動する。ここは本来毛利が陣を張る予定だったところ。

*毛利は南宮山に、家康は桃配山に

*秀秋はこの戦の勝者につくことで、小早川家の安泰を願った。

下図は東軍と西軍の配置



*小早川に対し、東軍も西軍もおいしい話(上方で2カ国を進呈する、7年間関白を約束するなど)を出してみ方に引き入れようと懸命だった。

*慶長5年9月15日午前8時合戦開始

3時間たっても小早川動かず → 家康は小早川陣に鉄砲を打ち込む → 4時間後に決断・大谷吉継をめがけて突進 → 半日で東軍の勝利 → この結果小早川は岡山55万石を与えられる。

*もし、小早川が西軍についたら

戦は混戦に → 戦国時代が長く続いた

*しかし、小早川は負けた西軍からはもちろんだが、勝った東軍からも恨まれた。それは、小早川に一番おいしいところを取られてしまったから。

*だが、21歳で死に家は没収された、が、擁護する人はいなかった。当時の武士道からすれば「裏切り」は最低のことだった。